

小矢部保健所管内における脳卒中発生率と生存率

中川秀昭¹⁾ 鏡森定信²⁾ 田畑正司¹⁾ 奥村義治¹⁾
西条旨子¹⁾ 成瀬優知²⁾ 中川秀幸³⁾ 河野俊一¹⁾

- 1) 金沢医科大学公衆衛生学教室
- 2) 富山医科薬科大学医・保健医学教室
- 3) 小矢部保健所

富山県小矢部保健所管内（人口約4万8千人）では1966年以来脳卒中患者の登録システムが採用されている。それに依れば、1977～1984年の8年間における脳卒中初回発生患者は1,028人になり、年平均発生率は全脳卒中で30歳以上年齢人口1,000人あたり、4.46（男5.14、女3.85）であり、病型別では脳出血1.05、脳梗塞2.59、クモ膜下出血0.20であった。

8年間の観察期間を2年毎に4つに分け、発生率の経年推移をみると、年齢訂正年発生率は全脳卒中、脳梗塞で男女とも減少傾向を

示していた。しかし男のクモ膜下出血発生率はわずかながら漸増していた。

1977—1982年に発生した全脳卒中患者を1985年末まで追跡調査を行ったところ、脳卒中患者の生存率は発症後1週間目で84.1%、1カ月で75.5%、1年58.0%、5年35.7%、9年目で26.2%であった。男より女の生存率は悪く、病型別では脳出血患者は半数のものが発症後半年以内に死亡していたが、脳梗塞患者では、半数以上が発症後3年以上生存していた。